

フセイン元大統領を拘束

米、戦争の目的達成

【バグダッド14日共同】及川仁「イラクを占領統治する連合軍暫定当局（CPA）のブレマー行政官は十四日の記者会見で、米軍がイラクのサダム・フセイン元大統領（66）を出身地の北部ティクリット近郊で生きたまま拘束したと発表した。拘束は四月九日の政権崩壊から二百四十九日目。



14日、連合軍暫定当局の記者会見で公開された、拘束されたフセイン元大統領の映像（CNN・サン共同）

行政官は「暴君は捕らわれの身となった。イラク人にとつて歴史的な瞬間だ」とし、イラク復興に新たなチャンスが出てきたと述べた。拘束時にフセイン元大統領は抵抗せず投降。健康状態は良好で、米軍の取り調べにも協力的だという。

後の焦点となる。ブレマー行政官によると、元大統領は十三日夜（日本時間十四日未明）、ティクリット近郊の村ダウルで拘束された。会見では長いひげをたくわえた元大統領が、口を開けてDNA鑑定のため組織を採取されているとみられる映像が流された。

会見に同席したイラク駐留米軍のサンチェス司令官は、フセイン元大統領はダウルの中庭で発見され、交戦はなかったと述べた。元大統領は拘束された際、七十五万ドル（約八千百万円）を所持していたという。

イラク統治評議会は旧政権の大量殺人や人道に対する罪を問う特別法廷を設置するが、サンチェス司令官はフセイン元大統領の身柄を特別法廷に引き渡すかどうかはまだ決めていないと述べた。